

学校教育目標	ゆたかに かしく たくましく
目指す学校像	子どもが行きたい学校 保護者が行かせたい学校 教職員がやりがいを感じられる学校 地域が信頼を寄せる学校
重点目標	1 基礎学力の定着・向上を基本とした個別最適な学びの推進 2 生徒指導・教育相談体制の充実による安心・安全な学校の実現 3 学校運営協議会機能を活用し、学校・家庭・地域の協働体制による社会に開かれた学校の実現 4 カリキュラムマネジメントによる一人ひとりの子どもたちのニーズに応える学習環境の整備 5 一人ひとりの教職員が安心して力を発揮できる職場環境の構築

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査は、正答率の平均値が全国とほぼ同じである。市との比較では平均を下回っている。 ○生活習慣に関する調査では学校生活や家庭での基本的な生活のリズムは良好。 〈課題〉 ○学習状況調査結果から基礎学力の定着・向上の必要性がある。特に数学は一層の向上。 ○学習の習慣化を定着させるために、家庭での学習習慣化を身につける必要性。	基礎学力の定着・向上を達成する授業改善	①基礎学力の定着・向上を達成するための授業改善として“個別最適な学び”“自由進度型学習”の手法を研究・実践する。	①学校評価（生徒）において「授業は楽しくわかりやすいですか」の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。					
		I C Tを活用した基礎学力の定着・学習習慣の確立	①デジタルドリル教材を活用し、自己の課題に応じた学習の習慣化を身につけさせる。	①学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「学びに向かう力等」について肯定的な回答をした生徒の割合が市の平均を過半数で超えることができたか。					
2	〈現状〉 ○生活習慣アンケートでは「教職員との信頼関係」「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合が非常に多い。 ○若い教職員の割合が多く、子どもたちと近い感覚で情報・意識を共有できている。 〈課題〉 ○教育相談機能の一層の計画的・組織的な活用。 ○将来の目標や自己実現に向かう気持ちの一層の醸成。 ○課題や壁に対して子ども自身に取り組ませる。	教育相談機能の一層の向上	①教育相談主任を中心に生徒の状況を把握し、必要な対応をチーム会議で検討・対応する。 ②いつでも・誰にでも相談できるソフト・ハード面を整備する。	①②学校評価（生徒）において「学校に行くのが楽しい」の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。					
		子どもの自己実現を達成するファシリテート	①キャリア教育を推進し子どもの自己実現に向かう気持ちを醸成する。 ②係活動や委員会・部活動を通して子どもの自己肯定感を醸成する。	①②学校評価（生徒）（保護者）において、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。					
3	〈現状〉 ○三橋小・中学校合同（協働）の学校運営協議会を活用した小中一貫地域連携を実施している。 ○地域にある子どもたちの学習機会にPTA・自治会等の協力を得て取り組んでいる。 ○地域人材の活用に取り組んでいる。 〈課題〉 ○学校・家庭・地域ができることを確認しながら協働活動へと一層の発展。 ○会員の意識・要望に則したPTA活動の実施。 ○デジタルを活用した情報発信機会の向上。 ○ヒューマンリソースマネジメントの一層の推進	学校運営委協議会の機能活用	①学校運営協議会で三橋学区が目指す児童像の具現化に向け、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確化する。	①学校運営協議会の熟議で、学校・地域・保護者の役割と具体的な取組について明確にし、協働へとつなげることができたか。					
		学校外の教育力の活用	①地域にある学習機会（ボランティア活動）を積極的に問い入れる。 ②地域を中心に学校外の教育力を発掘し本校の教育力として活用する。	①学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「地域とのかかわり」について肯定的な回答をした生徒の割合が前年度を越えることができたか。					
4	〈現状〉 ○sola る一む・さわやか相談室・外部機関との連携により子どもの特性やニーズに応じた学習の場を準備している。 ○カリキュラムマネジメントによる学びの効率性に取り組んでいる。 〈課題〉 ○子どもたちの特性に応じた学ぶ機会の補償。 ○子どもたち一人一人のやる気を応援することができるカリキュラムマネジメントの実施。 ○個別対応を可能にする学習支援者の一層の確保	誰一人取り残さない学習機会の構築	①子どもの特性に応じた学習機会の場を準備し、機能させる。 ②sola る一む機能を一層向上させる。	①不登校数の割合を前年度以下にすることができたか。 ②全欠生徒を0名にすることができたか。					
		カリキュラムマネジメントによる学習機会の工夫	①週の授業コマ数を28コマとすることで、子どもたちや教職員が一層充実させたい学習・活動時間を確保する。	①学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「主体的で対話的な深い学び」について肯定的な回答をした生徒の割合が前年度を越えることができたか。					
5	〈現状〉 ○10 年次研修了者は2割。5年次研を終了していない者は4割となる教職員組織である。 ○ICT の授業活用に積極的に取り組んでいる。 ○教員としての資質向上を達成する希望研究への参加、O J Tの活用がみられる。 〈課題〉 ○研修奨励による一層の資質向上を達成。 ○教職員としてのキャリアプランニング ○誰もが働きやすい職場環境の一層の充実。	キャリア段階に応じた研修による教職員の資質向上	①対話による研修奨励を推進し、教職員ステージにと伴う資質を身につけるための研修に取り組ませる。	①自己評価システム・学校評価（教職員）で「研修への取組」好評価割合が前年度を越えることができたか。					
		働き方改革をベースとする職場環境の改善	①教職員がやるべきこと・廃止することを学校全体ですすめる。 ②在校時間や休暇取得の管理を行うことで教職員個々のワークライフバランスを推奨する。	①②学校評価（教職員）で「働き方改革の推進」好評価割合が前年度を越えることができたか。					